

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ

<http://www.kagyoren.jf-net.ne.jp/>



JF
JF香川漁連

高松市北浜町 8-25

TEL 087-825-0350

FAX 087-851-0699

謹賀新年

香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長 嶋野勝路



新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

まずは、昨年1月1日に発生しました「能登半島地震」により甚大な被害に遭われた皆様に心よりお見舞いを申し上げますと共に、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

振り返りますと昨年、辰年は荒れる年と言われるように、社会・経済情勢の世界的な不安定化が続き、日本の漁業を取り巻く環境においても、燃油・資材価格の高騰や海洋環境の変化等に伴う不漁、自然災害など、大変厳しい状況に見舞われましたが、今年は巳年、巳（実）のり多き年、そして巳（実）を結ぶ充実の年となりますようお願いばかりです。

このような中、県下の漁業を振り返りますと、漁船漁業では、円安等の影響による燃油や資材価格の高騰、海洋環境の変化等による資源の減少により、一部魚種を除いて漁獲量の減少が続き、依然として厳しい環境下での漁家経営を余儀なくされております。一方、魚類養殖業では、天然ブリ等の豊漁に押され、養殖ハマチ、カンパチの消費が進まず厳しい状況となっております。また、ノリ養殖業では、水温の降下が鈍く11月下旬から県下全体での本張りとなり、12月の生産が遅れましたが、年末には第1回乾海苔共販が実施されました。今後は生産が順調に継続され、今漁期が豊漁となることを祈念いたしております。

本会といたしましては、引き続き県内水産業の振興に努めるとともに、漁船リース事業、新リース事

業、機器等導入事業等を推進し、地域全体の競争力強化を図ってまいります。併せて燃油及び配合飼料のコスト高騰対策である漁業経営セーフティーネット構築事業に加え、令和5年より開始されたALP S処理水海洋放出に伴う漁業者支援事業についても推進していく所存であります。さらに、藻場・干潟の保全や漁場環境整備、種苗放流による資源回復、栄養塩の適切な管理等を香川県、関係機関との協力、連携の下、推進するよう努めてまいります。

また、県産ハマチ・ノリ・イリコ等の消費拡大や販売促進を図る「さぬき海の幸販売促進協議会」事業においては、昨年9月に池田香川県知事出席のもと、流通懇談会及びPRキャラバンとして、2年ぶりに東京都中央卸売市場豊洲市場を訪問、市場卸売業者等と情報交換し、県内水産物のPR活動を行いました。さらに、県内外でのフェアの実施、イベント等への積極的な参加で県産水産物の消費拡大を図ってまいりました。本年も県、関係団体、系統、業界が一丸となり県産水産物の販路拡大、知名度向上を一層推進してまいります。

今後も厳しい経営環境が予想される中、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県海水魚類養殖漁業協同組合

代表理事組合長 嶋野文太

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

県内海面養殖では、ハマチ・カンパチ共に順調な種苗搬入となり、ハマチは夏季以降の全国的な在池薄により引き合いが強く、ほぼ年内での完売となりました。またカンパチにおきましても例年通り12月中旬の完売となりました。

経営面で見ますと、養殖餌飼料類や漁業資材や燃料類の前年来の価格高騰が継続し、国内養殖漁業全体の経営基盤が大きく悪化、魚価は上がっても極めて厳しい状況に置かれています。

国の施策に目を向けますと、養殖業成長産業化総合戦略により、海外輸出拡大を視野に入れた国内生産目標の増産への舵取りを進めようとする中で、平成23年から続いている漁場改善計画を図るために制定された適正養殖可能尾数が、今後の生産拡大の足かせになるとの判断に基づき、養殖積立ぶらすの令和9年からの廃止を行う方向で改正を進めようとしています。

国に対しては、増産等による価格下落への対応策としての新たな補填策を講じるよう、全国海水養魚協会から強く働きかける所存であり、また県内養殖が生き残る上では餌飼料の確保や海外輸出への検討などが、最重要課題と考えております。

そのような中、海水組合としましては、餌飼料価格の高騰対策としてセーフティーネット構築事業や生餌調整保管事業等の推進にも引き続き尽力し、また産地間競争におきましては「さぬき海の幸販売促進協議会」と協力し、引き続き香川が誇るブランド食材であるハマチ3兄弟のひけた鯛、なおしまハマチ、オリーブハマチや、オリーブ水産物としてオリーブマダイ、オリーブサーモンも含めた販路拡大とブランド強化に積極的に取り組んで参ります。

本年も、県水産課並びに香川県漁連、系統団体の皆様方からのご協力を仰ぎ、また、ご期待にお応え出来るよう、時代の荒波に負けることなく役員一同一丸となり、踏ん張っていく所存でございますので、何卒、尚一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、関係各位の皆様のご健勝とご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 香川県海苔養殖研究会

代表理事会長 西口正弘

新年明けましておめでとうございます。令和7年度の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当研究会の事業運営につきまして、会員の皆様を始め、関係団体の皆様には格別のご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、昨年を振り返ってみますと、本張りは低栄養塩の状況下、11月下旬から開始しました。1月に入ってから栄養塩は上がり、一部の地域を除き県下全体で色調の浅い製品が生産され、2月中旬からノリ網の撤去が進みました。2月下旬には、降雨の影響で栄養塩が回復した浜も見られましたが、主要な浜はほぼ終了となる状況となりました。価格面では九州地区が不作の影響により単価は高騰しましたが、県下ほぼ全域の漁場で低栄養塩の影響の為伸び足が鈍く、色調の浅い製品が多くなったことにより、共販枚数1億6,321万枚、共販金額23億1,775万円、平均単価14.20円となり、共販枚数・共販金額共に前年度を下回りました。また、無札はなく共販を終了することができました。

近年は、海水温の上昇、鳥や魚による食害等に加えて貧栄養化の影響も大きくなり、海苔の生産環境は厳しさを増し、減産要素を多く含んでいる中、食害対策等が効果的に発揮されるよう実用化に向けた取組みを継続し、貧栄養化対策について検討していきます。

また、香川ノリの普及PR活動に於いては各種イベントに参加、出前教室等を実施することができました。これからも香川県産ノリの販売促進と消費者への知名度向上に努めてまいります。

本年度の海苔養殖業においては、採苗は9月29日、育苗は10月26日、本張りは11月24日から開始しました。高水温の影響で育苗・本張りが例年に比べて遅れていますが、今後の生産に期待したいと思います。

本年も、県水産課並びに香川県漁連、系統団体と協力しながら皆様のご期待にお応え出来るよう、全力を尽くす所存でございます。何卒、本年も変わらずのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、会員各位、関係者の皆様のご健勝と本年海苔漁期の豊作、並びに皆様笑顔で漁期終了を迎えられることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



香川県無線漁業協同組合

代表理事組合長 嶋野勝路

新年明けましておめでとうございます。

令和7年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には、格別のご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、昨年を振り返ってみますと、元旦に能登半島地震が発生し、多くの漁港で損壊や地盤隆起、漁船の転覆や沈没など甚大な被害が出ました。また、通信ケーブルの切断により、携帯電話サービスに大きな障害が生じ、800以上の基地局で電波の送受信ができなくなりました。

平成23年3月の東日本大震災では、電話回線が使えない中、漁業無線を活用して救急車やヘリの手配、安否情報の発信等に対応したことを踏まえ、漁業無線の防災無線としてその役割の重要性が改めて見直されています。

漁業無線は航行や操業の安全、漁業の効率化に繋がる情報手段としても利点があり、北朝鮮によるミサイル発射情報を自動で船舶局へ発信するシステムが各海岸局に導入されており、迅速な情報発信体制の整備に取り組んでおります。引き続き、組合員の漁業操業の安全性確保に努めて参りたい所存でございます。

依然として漁業経営には厳しい状況が続いておりますが、本年も本県の基幹漁業である漁船漁業の発展のため、漁業無線の円滑な運用に努めていく所存ですので、組合員各位をはじめ、関係官庁並びに関係団体からのご指導・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、皆様方のますますのご健勝とご繁栄を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



一般社団法人 香川県水産振興協会

会長 嶋野勝路

新年明けましておめでとうございます。

令和7年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当協会の業務遂行につきまして、会員の皆様を始め、関係団体の皆様には格別のご支援、ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、元日より能登半島地震の暗いニュースから始まりましたが、国内経済は着実に回復したと思われまます。多くの産業で業況が改善し、特にインバウンド消費に関連したサービス業が活況を呈しました。

国内水産業においては、長期化する温暖化の影響や燃油の高騰に伴う水揚げの低迷等、影響が顕著に表れております。また、物価の高騰による消費の減少が懸念されており、本年も水産業における影響が気になるところです。

令和7年度の本協会の事業といたしましては、引き続き4月初旬から12月中旬までマダコ、ヒラメ、クルマエビ、キジハタ、メバル等の重要魚類の種苗放流を継続実施し、水産資源の維持増大に努めてまいります。また、水産物消費対策事業では、魚食普及の推進が大きな課題となっており、県産水産物の食材活用を目的とした水産食育教室を開催するとともに、近年増加している海中転落をはじめとした海難事故については、関係機関と連携し、ライフジャケットの着用推進を目的とした海上呼びかけ運動を実施し、会員の皆様への法令遵守の啓発に努めます。併せて、ネットローラーの巻き込み防止装置につきましても設置推進を図ってまいります。

漁場環境保全対策事業としては海浜清掃事業等の支援を行い、大量の海岸漂着ごみの回収に協力してまいります。

最後に、令和7年度が事故無く豊漁となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者皆さまのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 坂本 雅信

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返りますと、昨年も多く自然災害に見舞われた1年でした。その中でも、1月に発災した令和6年能登半島地震は記憶に新しく、漁業者の大切な生活基盤である漁港がこれまで経験したことのない地盤の隆起により、甚大な被害を受けました。本地震の被害に対し、皆さまには募金や物資の支援などについて多大なご協力を戴いたところですが、被災地では今も漁業関係者のみならず地域住民が一丸となって復興に向けて尽力しており、本会では引き続き皆さまのご協力を得ながら、一日も早い復興に向け、支援して参る所存です。

このほか、私たちの生業の場である海の環境は、変化の一途をたどっており、海水温の上昇などの影響を受け、前浜における漁獲魚種の変化や漁業生産量の減少が顕著となっています。海洋環境は今、「激変の時代に突入した」と言え、JFグループは、この海洋環境の激変に立ち向うべく、自らの役割、使命が大きく問われています。

そのため、我々は昨年12月に全国から約1,000人のJF代表者が参集した「JF全国代表者集会」を開催し、「漁業者を支える事業・経営改革の断行」、「組織基盤の確立」、「浜での中核的役割発揮による漁村・漁業への貢献」の3つの取り組みを柱に据えた今後5か年の新たな運動方針をJFグループ総意の下、採択し、総力を挙げて、JFの自己改革を断行することを決議しました。

私自身、日本の漁業にはポテンシャルがあると確信しており、これからの5年間は、まさにそのポテンシャルを引き出す時だと考えております。JFグループは、新たな運動方針の下、海洋環境の激変や資材価格の高騰、ALPS処理水の海洋放出に伴う海外における水産物の輸入規制など、山積した課題や困難を克服し、漁業者の所得向上を図るとともに、持続可能な漁業経営と水産食料の安全保障をはじめとした漁業者・国民の負託に応えるべく、組織の総力をあげて取り組んで参ります。

そして、我々は日本の海や漁村の地域資源の価値や魅力をさらに活用・発信して、地域の賑わいや所得と雇用を生み出すことが期待される「海業」の振興などとともに、「浜の活力再生プラン」を推進して

参ります。併せて、プライドフィッシュプロジェクトなどを通じて、国産水産物の消費拡大の一翼を担っていく所存です。

JFグループ関係者の皆さまにおかれましても、これまで以上に英知と総力を結集していただき、本会の活動に対して、引き続きのご協力・ご賛同を頂きたいお願い申し上げます。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆さまの操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。



乾海苔初入札

令和6年度県内産養殖ノリ（乾海苔）の初入札会が、12月24日（火）高松市瀬戸内町の本会瀬戸内事業所において開催されました。



第1回共販の様子

本張りの遅れから初入札の出品枚数は632万枚（前年対比67%）となりましたが、近年、低栄養塩等の影響から全国の乾海苔生産は減少しており、入札金額は2億512万円（前年対比120%）、平均単価は32.41円（前年18.14円）と近年では一番高い相場での入札会となりました。

これから県下全地区で本格生産に入りますが、今漁期の豊作を心より期待致します。